



議員 佐藤 克典 (政和会)

## 問 大豆・穀物等の 保管等施設整備は

### 答 新たな施設の設置を検討

**問** 県が事業主体となり実施されてきた山田北地区の圃場整備事業は町当局そして岩手県土地改良連合会の絶大な協力のもと完工することが出来た。大区画に圃場が整備されたことにより担い手への農地の集積も、より一層進み、農地の有効利用が図られている。しかし農家の経営面を見ると近年の米価の下落、労働力の分散などから大豆あるいは餌米への作付けに移行している現状にある。大豆の作付けは増加傾向にあるが、それを補う乾燥・保管施設が不足している状況にあり、大豆・穀物等の円滑な流通を図るため施設の整備が

必要と考える。関係機関で前向きに検討すべきと考えるが。

**佐藤町長** 施設整備については座談会等を通じ、農家の皆様から意見・要望を頂いており、既存施設の改修や新たな施設の設置について検討を始めた。施設整備にあたっては農協を中心とした効率的な集出荷体制の構築が必要となることから、宮古地方農政連絡会議において、新たな検討会等を設置することを提案した。今後、課題の共有、方向性について検討する。

- ◆ 出産祝金を支給すべきでは
- ◆ 豊間根支所兼集会施設の整備は
- ◆ 移住定住支援策は

その他の質問

## 問 北一Cフル化 要望活動見通しは

### 答 新年度に調査費がつく可能性あり

**問** 町長の「山田北インターのフル化」への強い決意がうかがえ、大変心強く感じている。昨年は防災や企業誘致の面から整備効果の提示、そして地元住民・企業の切実な声を届け、国からはおおむね理解が得られたものと捉えているとのことだが、フル化には、整備に

**町長** 国からは、フル化への必要性に対し理解が示された。現在、三陸国道事務所では、技術的課題の検討や事業化に必要な手続きの整理など慎重に作業を進めているとの



今後もフル化実現へ積極的な働きかけを

ことである。町としては宮古市の協力も得ながら、一日も早い事業化実現を目指し、整備費予算確保のための政府要望など国に対する積極的な働きかけを今後も粘り強く推し進める。

**問** 要望の際、財務大臣はもろろんだが、予算編成に携わる主計官、国交省の道路局長に切実な生の声を届けることが出来たことは大きな成果と思う。どう総括するか。

**町長** 11月の豊間根地区9団体の自治会の皆様からの要望、8月には企業の社長との懇談の中でフルインターになったら工場の増設を進めたいとの意見をいただいた。皆様の協力を得ながら進めてきた結果、新年度には調査費がつく可能性が十分あると考えている。